

いじめ対応充実の手引き③



長野県教育委員会事務局教学指導課心の支援室

いじめの起こりにくい学校・学級づくり

いじめを起こりにくくする職員集団

児童生徒との信頼関係なくして教育効果を高めることはできません。信頼関係を構築するためには教職に対する熱い情熱に支えられた生徒指導力と教科指導力が求められます。

学校生活の大半は教科の学習です。そのため、児童生徒にとって学級担任や教科担任などの先生はもっとも身近で、影響力のある存在です。言い換えれば「先生が一番の学習環境」だということです。つまり、授業をはじめ学校生活の全ての場面において、先生の姿勢や心構え、人権感覚が問われているということです。先生のあり様がそのまま児童生徒の姿となって表れるといってもよいかもしれません。

1 環境を整える

教師自身が児童生徒にとって一番の学習環境だという自覚をもち、人権感覚を大切にした言動をもとに授業をはじめとする教育活動に取り組まなくてはなりません。

ポイント

ともに過ごし、受け止める

- 授業をはじめとして、あらゆる機会をとらえて、児童生徒とともに活動する時間を大切にし、一人一人の児童生徒のよさを見つけようとする。
- 児童生徒や保護者の声に耳を傾け、一人一人の声を受け止める。

愛ある言葉

- 生徒一人一人の大切さを自覚し、尊重した上で、正しく美しい文字・言葉を使う。
- 「意欲を高め、心を開く」言葉がけを自然に行う。生活記録や日記による対話を大切にする。

鋭い感性

- アンテナを高くし、「まさか」を想定した危機察知能力を身につける。

授業で心がけたいこと

- 一人一人の児童生徒の発言や頑張り、学びのよさを見逃すことなく、多面的に認めたり、ふだん目立たない児童生徒の意見もとり上げたりして「自己存在感」のもてる授業づくりをする。
- 「みんなで学ぶ場」を授業の中に設けたり、コミュニケーションの場を設定したりして、児童生徒同士が友のよさを認め、自分のよさに気づくことができるようにする。

児童生徒一人一人にとって「どの子ども落ち着いて学習できる教室環境づくり」が欠かせません。「信州Basic」を参考に「安全」「安心」「快適」の観点から教室環境を作っておきましょう。また、規範意識を醸成することも必要です。

さらに、欠席した児童生徒への配慮をしたり、昇降口の靴箱などにも目を配ったりして、いじめが起こらない、起こってもすぐに気がつく環境を整えておくことも重要です。

※「教師の人権意識チェック55」を利用してみてください。

2 チームワークで取組む

いじめ問題に対しては、「いじめは絶対に許さない」という毅然とした姿勢を貫くとともに、校長先生の方針・生徒指導系の運営の下に、担任の先生が一人で抱え込むことなく、全職員が一致協力してチームで取組まなければなりません。その際、下図のような考え方の転換が不可欠です。

その上で、校内の報告・連絡・相談体制を整えたり、チームによる早期発見・早期対応の手順を確認したりしておきましょう。



ポイント

チームで対応するために、同僚性を生かした職場を作る

学校における同僚性とは「学級を開き、ともに学び合うかかわり」のことです。生徒指導上の課題に対して、一人で抱え込まず「チーム」で対応することは、現在どの学校でも大切にされていることと思います。今、先生方は日常的に自分から「相談」しながら仕事をされていますか？聞いた教わったりしながら仕事をするのも先生に求められる資質です。なんでも一人でできてしまう先生はそんなにたくさんはいません。そのかわり、一人一人はちがった持ち味をもっています。それらががっちり組み合わせ合ったときに、集団は強固なものになります。

気軽に相談し合える雰囲気を作るとともに、授業や特別活動、清掃時、休み時間などにおける児童生徒の様子を日常的に情報交換し合う職員室作りを行いましょう。

また、同僚性のレベルを高めていくことも必要です。